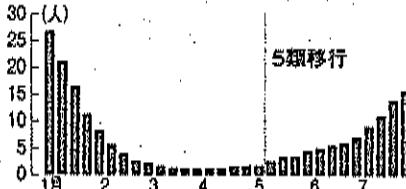


新型コロナ感染者数の定点報告の推移  
5類移行前の数値は参考値、厚生労働省の発表から



# コロナじわじわ入院増

身構える病院 1カ月で倍「既に第3波の半分」

新型コロナウイルスが感染症法上の5類になつて8日で3カ月。全国の新規感染者は11週連続で増加が続いている。連日猛暑で熱中症患者も増えている。

東京都立多摩総合医療センター（東京都府中）

市）は一回からコロナの入院患者が増え始め、いまは常に20～30人が入院する。1カ月前の約2倍に相当する。同センターに感染症内科医長の織田鉄太郎医師によると、高齢者は発熱や倦怠感、基礎疾患の悪化などの症状が多い。若い人のどの強多い痛みなどで食事がどれ

ない人がいるところ。東京医科歯科大病院（東京都文京区）には、3日時点では2人、中等症11人が入院している。植木謙・新型コロナウイルス対策部長は「7月に入ってじわじわ入院が必要な患者が増えた」と話す。熱中症患者が増えた」ともあり、救

## 病床埋まり搬送困難急増

流行先行の沖縄 医師に聞く

5類移行後も他地域より早く流行が拡大した沖縄県。県内の入院患者は、5月中旬に200人超となり、6月末には千人を超えた。7月以降は徐々に減っている。県立中部病院でコロナ診療をする高山義造医師に、「この間の様子の注意点を聞いた。

コロナ診療をする診療所が増えたこともあり、軽症者が一部の救急外来に集中する状況はなくなりました。一方、救急隊が4回以上受け入れを経験した、救急搬送困難件数は急増しました。コロナ前は年に数件程度だったのが、5月末からの8週間で計441件。異常事態です。

441件のうちコロナ患者は27%で、7割以上はコロナ以外。なぜかと云ふと、5類移行後もコロナの確保病床があるため、コロナ患者は比較的入院しやすい。その分、ベッドが埋まるため、コ



オンラインで取材に答えた沖縄県立中部病院の高山義造医師

（園子子編集部外配字）

ない人がいるところ。急車は1日平均30台ほど受け入れる。

7月末現在、都内には約1750人の入院患者がいる。直近3回の流行に対し、今はゆっくりじわじわ現状は（第8波）ピーク時の半分ぐらではないか」とあります。

水準が都内のベッド数の限界に近づいた。植木謙医長は「前回の第8波が急峻な山だったのに比べて、今はゆっくりじわじわ現状は（第8波）ピーク時の半分ぐらではないか」とあります。

過去3年の夏の流行は一気に感染者が増え、医療機関につながった。

植木謙医長は「今後一気に感染者が増え、医療機関につながった場合を想定して、病床数をどう増やしていくか検討に入っています」と話す。

過去3年の夏の流行は一気に感染者が増え、医療機関につながった。

植木謙医長は「今後一気に感染者が増え、医療機関につながった場合を想定して、病床数をどう増やしていくか検討に入っています」と話す。

（神宮司美玲、権藤一也）

（神宮司美玲、権藤一也）